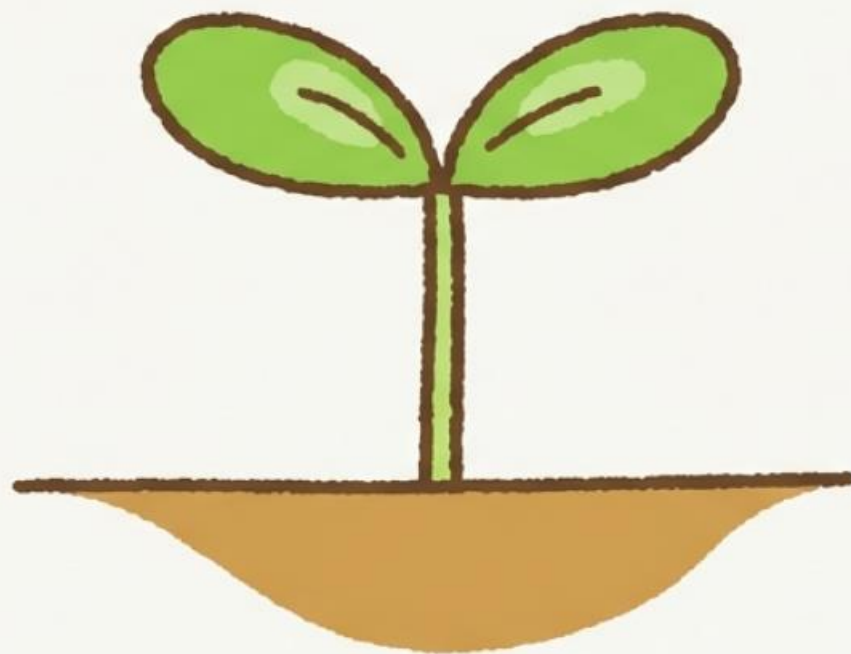


確かな学びを育む学校づくり



令和7年度 スクールエンパワーメント推進事業・校内研究2年目の挑戦

研究主題の変遷：インプットからアウトプットへ

R6年度 研究主題：

『主体的、対話的で深い学びの
実現に向けた授業づくり』

- 「読み取る力」
- 「書く力」



課題：基礎学力・語彙力の不足
→ 書けない → 意欲低下

Step-Up

インプットから
アウトプットへ

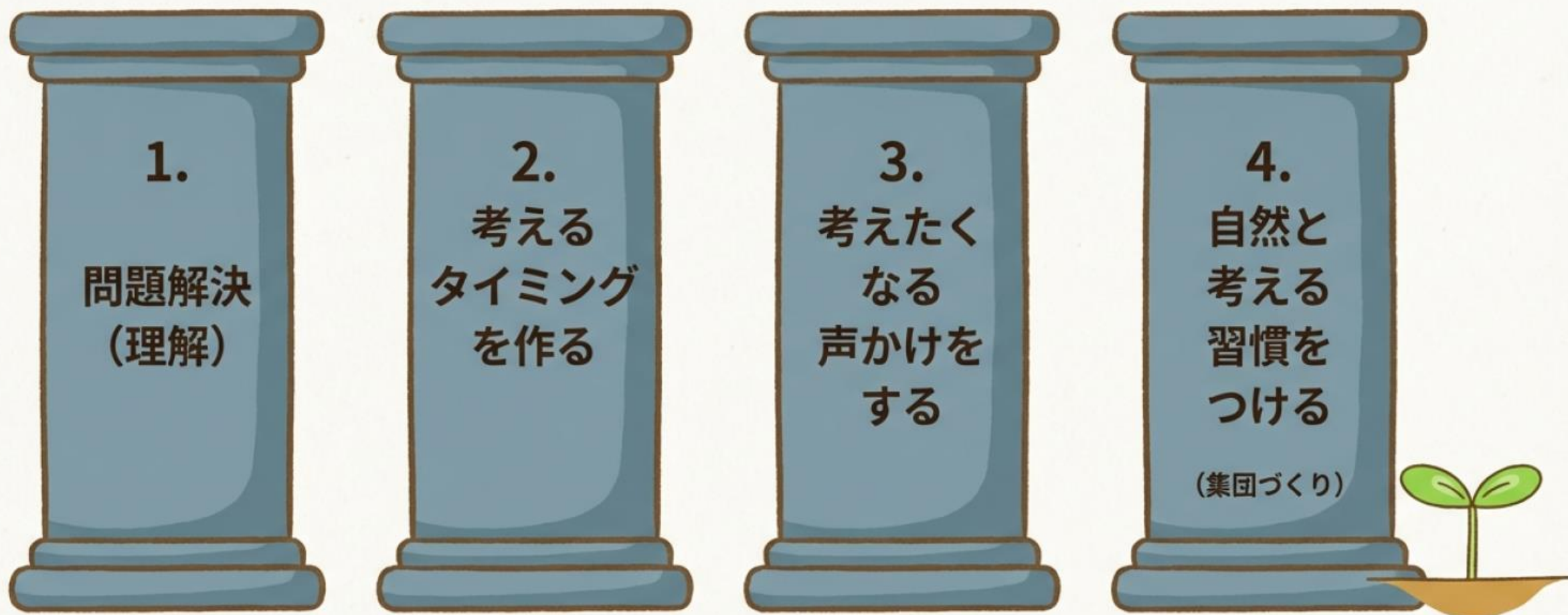
R7年度 研究主題：

『主体的、協働的な学びの中で、
自分の考えを表現できる
子どもの育成』

自分の考えを
文にし、
交流していきたい

思考をカタチにする：言語活動の深化

重点課題：思考を深める言語活動を授業の中にどう取り入れるか



授業改善のエンジン：PDCAサイクル

P（計画）

- ①校内研修の計画
- 教科研修の計画
- 朝学習計画

D（実践）

- ②研究授業
- 相互授業参観（全職員）
- 校内研修

授業改善

A（改善）

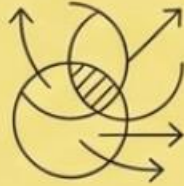
- ④次学期からの授業改善

C（評価）

- ③活用テスト（各学期に1回）
- 児童アンケート（各学期に1回）
- 教員振り返りシート（各学期に1回・学年）

ミニ研修によるスキルアップ

明日の授業に直結する実践的スキル



算数：シエーマ図



国語：書写・硬筆・毛筆



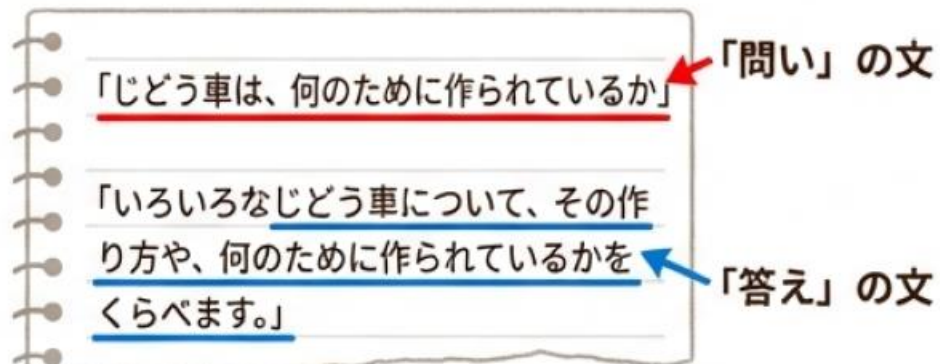
ICT：CANVA研修, ロイロノート



英語：英語ミニ研修

実践：低学年（構造の可視化とICT）

1年：『じどう車くらべ』



- 🌱 「問い」と「答え」を色分けして視覚化
- 🌱 LoiloNote（共有ノート）でクラス全員の考えを即時共有

2年：『おもちゃの作り方をせつめいしよう』



- 🌱 順序を表す言葉（まず、つぎに…）の指導
- 🌱 「教師の『悪い例文』」を提示し、子どもが間違いに気づく活動を展開

実践：中学年（書くための手立てと論理）

3年：『こまを楽しむ』/日記指導

話してから書く
(Speaking before Writing)




- ✪ 書きたい内容をメモにまとめる
- ✪ ペアで話してアウトプットしてから書く

4年：『思いやりのデザイン』

段落相互の関係
(Introduction/Body/Conclusion)

- ✪ 「はじめ・中・おわり」の構成理解
- ✪ 書くための手立て：ヒントカード、チェックポイント、例文
- ✪ 成果：「自分で書けた！」という達成感

実践：高学年（要旨の把握と批判的思考）

5年：『言葉の意味がわかること』

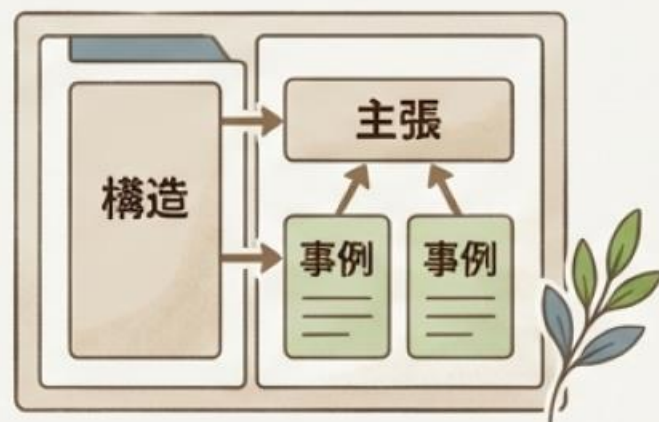
要旨をまとめる



- 筆者の考えの中心となる文を見つける
- 自分の経験と結びつけて考える
- 課題：詳しく書きすぎてしまう傾向
（要約の難しさ）

6年：『時計の時間と心の時間』

構造と主張の事例



- 文章全体の構成を捉える
- 筆者の主張と事例の関係を整理する
- 交流を通して自分の考えを磨く

「書く」を支える共通の手立て

視覚化



「問い」と
「答え」の色
分け、構造図
の掲示

あえて 間違える



教師が「悪い
例文」を示
し、子どもの
気づきを促す

話してから 書く



書く前に口頭
でアウトプッ
トし、思考を
整理する

ICT活用



共有ノートで
他者の考えを
即座に参照・
交流

足場かけ



ヒントカード、
書き出しの例
示、チェック
ポイント

児童アンケート結果：学習内容の定着

国語の授業は
わかりましたか？

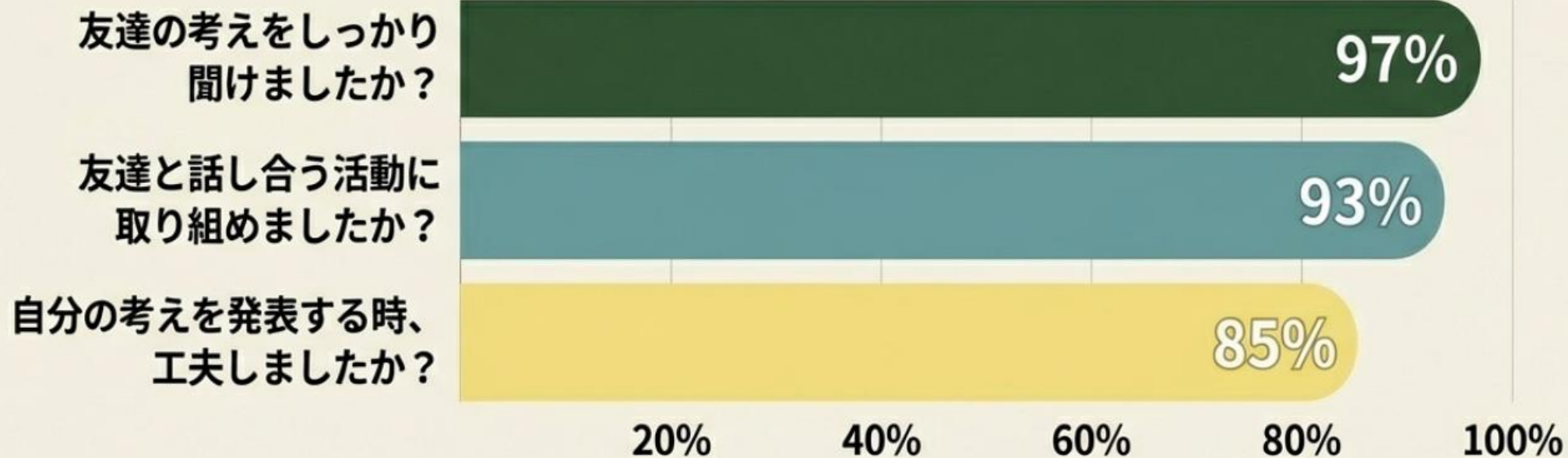
約95%

授業で学んだことを、
他の勉強に役立てる
ことができましたか？

約90%

基礎的な「理解」は
非常に高い水準で
維持されている

児童アンケート結果：対話と協働の広がり



「聴く」「話す」という協働的な学習規律が定着している

子どもたちの変容

基礎・基本の定着

語彙力向上。
主語・述語や文の構造を
捉えられるようになった。



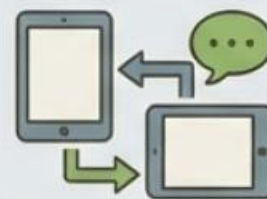
自信と意欲

「自分で書けた！」という
成功体験が自信につながった。



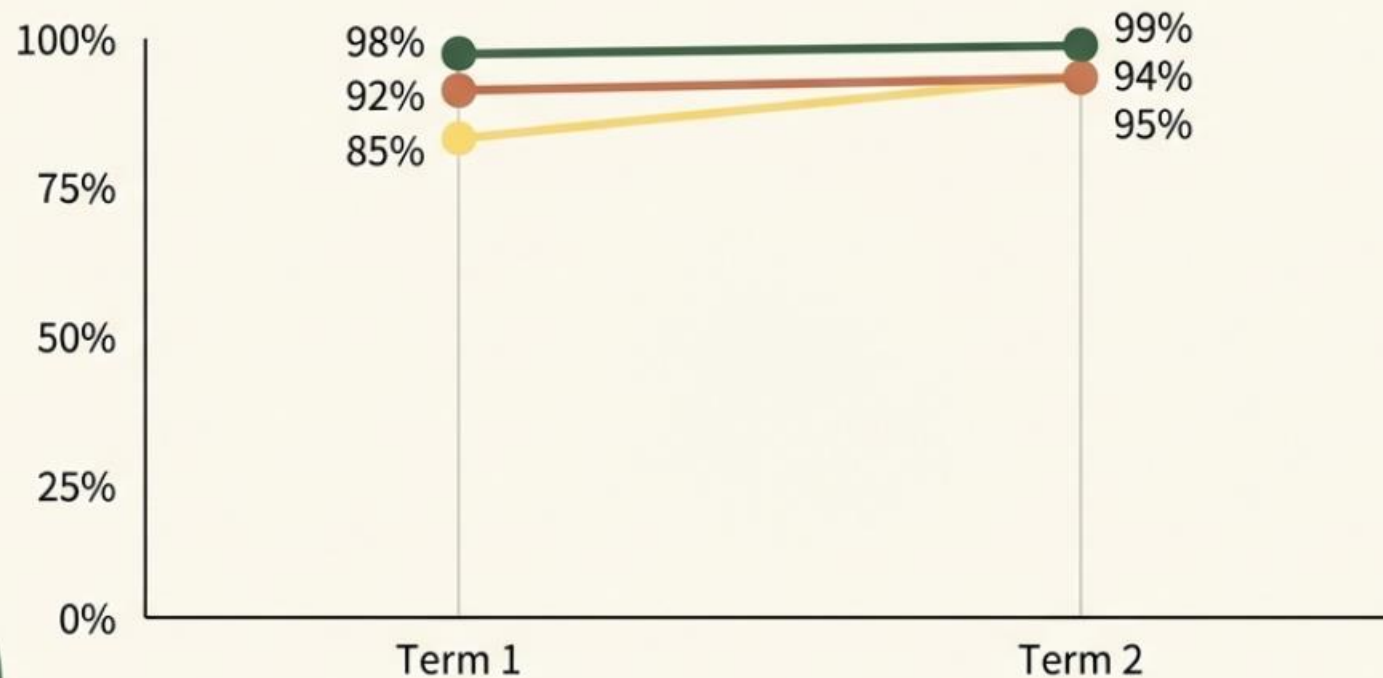
ICT活用スキル

端末を「見る」だけでなく
「共有・交流する」道具として
使えるようになった。



今後の課題 書く過程における「対話」の深化（見せ合いから、練り合いへ）

教員アンケート比較：指導方法の改善



- 授業で必ず学習の目標（めあて）を示している
- 授業のまとめを工夫している
- 友達と話し合う活動を行っている

授業の「導入」と「終末」への意識が高い

教職員の成果と成長



教材研究の深まり

研究授業学年と裏学年
(例：3年と4年)が連
携し、系統性を意識し
た指導へ。



授業観の転換

相互授業参観を通し
て、他の教員の優れた
実践を自分の授業に
り入れる文化が定着。



スキルの向上

ミニ研修 (Canva,
算数シエーマ) によ
り、即実践可能な
スキルを習得。



主体的・協働的な 教員集団

子どもたちだけでな
、先生自身も「学び合
う」姿勢へと変容。

まとめと今後の課題

これまでの成果

- R6（基礎）からR7（表現）へのスムーズな移行
- ICTと視覚的支援（色分け・構造化）による「書く」土台づくり

これからの挑戦



ICTルールの
明確化

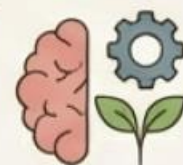
メリハリのある活用



協働的な
「書く」活動



二人で一つの文章を
作る等の共著



思考習慣の
定着

自然と考える姿勢を
当たり前

「考える習慣」を育てる



考えるタイミングを作る
考えたくなる声かけをする

自然と考える習慣をつける

全教職員で、子どもたちの「思考の芽」を大切に育てていきます。



ご清聴ありがとうございました

研究の歩み：基礎から表現へ

R6年度（1年目）

『主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり』

基礎学力・語彙力不足

言葉の意味がわからない

書けない

意欲の低下

R7年度（2年目）

『主体的、協働的な学びの中で、自分の考えを表現できる子どもの育成』

- ✓ 「書くこと」を膨らます
- ✓ 自分の考えを文にする
- ✓ 交流する

「読み取る力」 → 「書く力」 → 「伝え合う力」

全職員で学ぶ・互いに高め合高め合う



相互授業参観の様子

相互授業参観（全職員）

- 管理職参観期間と同じ期間に実施
- 授業公開者の紹介コーナーを設置

経験年数の浅い教員の育成

- T1・T2としての指導体制
- 授業案（板書・ノート）の作成支援
- 授業後のふり返り（発問・切り返し・時間配分）

ミニ研修によるスキルアップ

- JS算数シエーマ図
- CANVA研修
- 英語ミニ研修

成果と今後の課題

成果 (Results)

- ❖ 教材研究の深まり
- ❖ 相互授業参観による教員自身の学び
- ❖ ミニ研修によるスキルアップ

今後の課題 (Challenges)

- 🗨️ 「読む」から「書く」へのスムーズな連携
- 🗨️ ICTのより効果的な活用とルールの徹底
- 🗨️ 接続詞や主語・述語の正しい使用



令和7年度 スクールエンパワーメント 推進授業

「確かな学びを育む学校づくり推進校」
— 思考をカタチにする言語活動

千代田小学校



授業改善のためのPDCAサイクル

P (計画)

- ①校内研修計画
教科研修

D (実践)

- ②研究授業
相互授業参観

授業改善

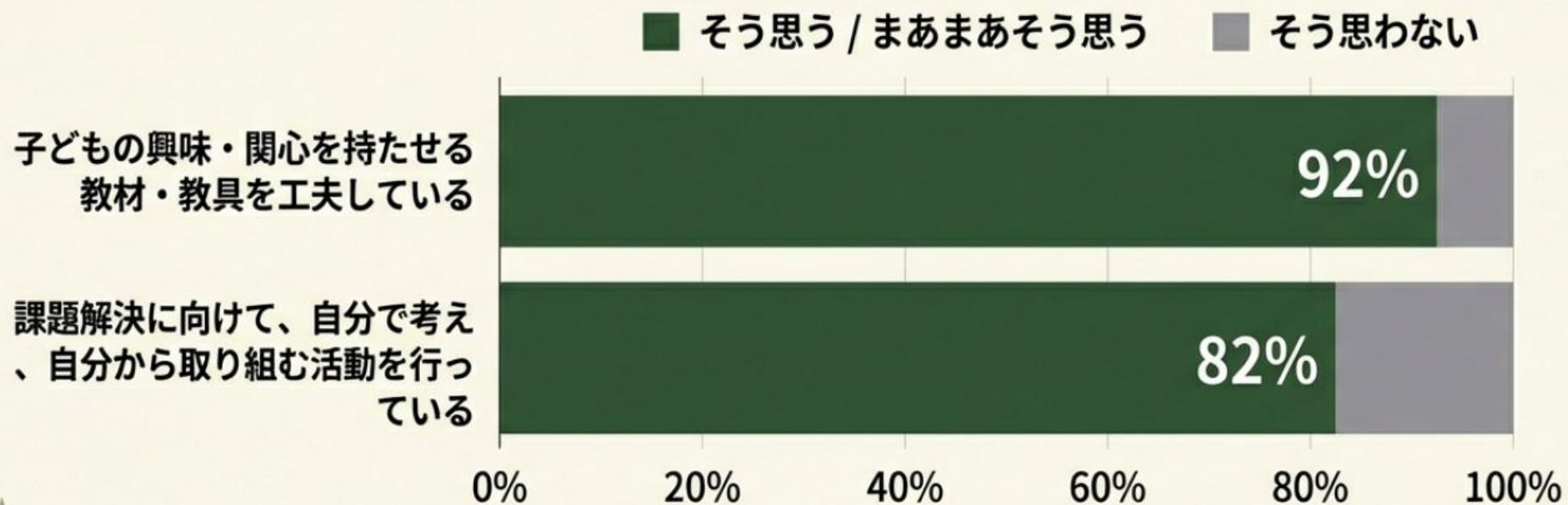
A (改善)

- ④次学期からの
授業改善

C (評価)

- ③活用テスト
- 児童アンケート
- 教員振り返りシート

教員から見た児童の変容：主体的な学びへ



教材の工夫が、児童の主体的な取り組みにつながっている